

横浜市教育委員会  
臨時会会議録

- 1 日 時 令和4年12月15日（木）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと6・7）
- 3 出席者 鯉渕教育長 中上委員 森委員 四王天委員 大塚委員 木村委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

# 教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

令和4年12月15日（木）午前10時00分

## 1 会議録の承認

## 2 一般報告・その他報告事項

子ども科学教育研究全国大会について

新型コロナウイルス感染症への対応について

## 3 審議案件

教委第46号議案 横浜市国際学生会館指定管理者選定評価委員会委員の任命について

教委第47号議案 教職員の人事について

教委第48号議案 教職員の人事について

教委第49号議案 教職員の人事について

教委第50号議案 教職員の人事について

教委第51号議案 教職員の人事について

## 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

鯉渕教育長

ただいまから、教育委員会臨時会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。11月18日の会議録の署名者は木村委員と大塚委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、12月2日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

木村教育次長

### 【一般報告】

#### 1 市会関係

○12/6 本会議（第2日）議案上程・質疑・基本計画特別委員会設置・付託

○12/9 本会議（第3日）一般質問

○12/14 基本計画特別委員会（議案審査）

教育次長の木村です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、12月6日に本会議第2日目が開催され、議案上程・質疑・基本計画特別委員会設置・付託が行われました。

12月9日には本会議第3日目が開催され、一般質問が行われました。

12月14日には基本計画特別委員会が開催され、議案審査が行われました。

#### 2 市教委関係

##### (1) 主な会議等

○12/6 いじめ防止市民フォーラム

##### (2) 報告事項

○子ども科学教育研究全国大会について

○新型コロナウイルス感染症への対応について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、12月6日にいじめ防止市民フォーラムが市庁舎1階のアトリウムで開催され、四王天委員が出席されました。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点報告させていただきます。まず1点目ですが、「子ども科学教育研究全国大会について」、次に2点目ですが、「新型コロナウイルス感染症への対応について」報告いたします。

私からの報告は以上です。

鯉渕教育長

報告が終了いたしました。何か御質問等ございますか。

四王天委員

いじめ防止市民フォーラムに参加してまいりました。地域ごとのブロックの小・中学生が一緒になっていじめ防止のためのいろいろな施策を考えて発表するという場でした。皆ここに共通しているのが、挨拶です。挨拶を励行しようということを各ブロックとも共通して挙げておりました。ここで質問の場などいろいろあったのですが、私は挨拶することをみんなと一緒にしようというのはとても良いのですが、みんなが挨拶しようと言っているのに挨拶ができない、行わない方がいた場合にどうするかを考えるのが、いじめ防止に対して一番成果が上がるのではないかと思います。「このような機会を設けて挨拶をしましょう、それがいじめ防止につながります」というような質問はしませんでした。心の中で思った質問ということで御報告なのですが、それをどんどん進めていって、その先に、中には挨拶がどうしてもできない方がいることを知って、それからコミュニケーションの難しさというものを学んでくれたらなと思います。この機会に更にステップアップして継続して行っていただければ良いなど、そのような感想を持ちました。以上です。

鯉淵教育長

御意見ということでよろしいでしょうか。

それでは次に「子ども科学教育研究全国大会について」、所管課から御報告いたします。

石川学校教育  
企画部長

学校教育企画部長の石川でございます。本市の立野小学校がソニー子ども科学教育プログラム2021年度教育実践論文で最優秀校を受賞し、令和4年度子ども科学教育研究全国大会を開催いたしましたので御報告いたします。詳細は所管課長より申し上げます。

根岸小中学校  
企画課長

小中学校企画課長の根岸です。「子ども科学教育研究全国大会について」御報告いたします。

まず「1 概要」です。立野小学校がソニー子ども科学教育プログラム2021年度教育実践論文で最優秀校を受賞し、令和4年度子ども科学教育研究全国大会を開催いたしました。当日は全国から200名以上の教職員や大学生が参加し、全クラスで授業を公開いたしました。審査員の千葉大学山下修一教授から、「立野小学校の取組は、指導が難しい単元にチャレンジしていて見どころが多いことや若手教員を巻き込んだ学校全体としての取組になっていること」と評価いただいております。

立野小学校では、ソニー子ども科学教育プログラム教育実践論文に平成29年度から応募しており、平成29年度、平成30年度は奨励校、令和元年度、令和2年度は優秀校を受賞しております。令和3年度は、全国の小学校・中学校より161件の応募があり、書類審査、オンラインインタビューや授業実践を記録したビデオによる審査を経て、審査委員会により、立野小学校が最優秀校2校のうちの1校に選ばれたということです。実践論文では、運動会当日の天気を予想することと天気の変化を関連付けた学習や、年間を通じて根岸森林公園の自然と関わる学習、いろいろなおもちゃを作って全校の皆に遊びに来てもらうことを目指したおもちゃランドの学習など、児童が主体的に学んでいる授業実践が報告されております。米印にはソニー子ども科学教育プログラムについて記載しておりますので、御参考にお読みください。

「2 日時・場所」ですが、令和4年11月25日金曜日に立野小学校で開催されました。「3 時程」につきましては、8時50分、開会行事として、株式会社ソ

ニー取締役会長盛田様の御挨拶、ソニー科学教育研究会理事長の吉永様、そして鯉渕教育長にも御挨拶いただいております。その後、公開授業が2回、9時30分、10時40分と行われ、その後、ポスターセッションということで、このプログラムに応募された全国の学校等の団体のポスターセッションが開催されております。昼食後には、午前中の授業を基に学年ごとの研究協議会が開催されております。14時40分からはシンポジウムとして「新たな価値を創造するには」をテーマに、そこに記されておりますシンポジストの皆様でシンポジウムが開催されております。なお、一番下の小机小学校の鈴木康史校長がコーディネーターを務めております。最後、16時10分に閉会行事といたしまして、千葉大学教育学部理科教育教授の山下先生によって指導講評がなされました。

裏面に移ります。「4 公開授業一覧」ですが、そこにお示ししたとおり、「公開授業①、②」が開催されております。個別支援学級では生活単元・生活科、理科の発表、1年生から2年生では生活科の発表、3年生から6年生では理科の発表ということで公開授業がなされております。本日は立野小学校の石川校長もいらしておりますので、具体的な取組等の御質問があれば、御意見等を頂ければと思っております。説明は以上です。

鯉渕教育長

説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

中上委員

御報告ありがとうございます。まず、校長、教員の方、今日は本当にありがとうございます。おめでとうございます。私も中区に十数年前に勤めていたとき思い出すのは、開港150周年として、開港期の壁画を美術館などから取り寄せて復活させて、JRの山手駅のところに作ったことです。それがすごいのは学校の力と、横浜市の地区連合町内会長たちも協力して、すごくお金がかかるわけですが、例えばキリンホールデングス株式会社などからのお金でそれが全部カバーできて完成し、私も非常に感銘を受けました。そのときから、校長のお話を伺っても教育実践に非常に力を入れている学校だなという印象で、今もその伝統があってこのように素晴らしい賞を受賞されたことはすごいなと思います。

株式会社ソニーは世界のソニーですから、株式会社ソニーがものづくりの科学的なこのような賞を大事にするというのは、今よく言われている探究型学習で自ら課題を発見して解決していく、実践していくということの、まさに良い賞を取られたなという感じです。特に株式会社ソニーの初代の会長は幼児教育に非常に力を入れているいろいろな発信をされていきましたけれども、そういった意味でも名誉ある賞で、これから日本を背負っていく人材にもつながる話だと思います。今後の引き続きの御活躍を期待したいと思います。以上です。

大塚委員

立野小学校の皆様、今回の受賞、本当におめでとうございます。立野小学校は歴史もあって、生活科、総合的な学習等で取組を積み重ねていらして、今回の子ども科学教育研究全国大会は、平成29年度からずっと応募されているという地道な取組があって最優秀校に選ばれたのだと思います。立野小学校の様々な努力がある中で、このようところが一つの要因ではないかということをお教えいただけたらと思います。お願いいたします。

石川立野小学校校長

立野小学校校長の石川です。本日はありがとうございます。発表した実践論文は、今ここにいる研究主任の境教諭と若手教員複数名で作りました。評価していただいた大きな要因の一つに、個人研究ではなく学校研究として科学的な力、科学が好きな子供を育てるという実践がなされていることや、研究実践を通して若

手教員が力を付け、育っていくという、その姿が受賞要因であったと審査員の皆さんからもお話を伺っています。学校がチームとして子供を育てていくという、一つの柱としてこの賞をいただいたことはありがたいと思っています。具体的な教育実践については、研究主任の境教諭が職員や教員を巻き込んでいますので、具体的にお話しさせていただければと思います。

大塚委員                      お願いいたします。

境立野小学校  
教諭                      横浜市立立野小学校で教諭をしております境と申します。本日はありがとうございます。今、石川校長も話していたとおり、若手がかなり育っているというのが一つの大きな要因ですが、当然それに伴って子供たちも育っていて、子供たちが主体となった学習がどのクラスでも展開されています。そのため、そこが大きな要因だったかなと思います。もう一つは、科学的というところで理科を進めていくこと、生活科は自分の思い、願いをどう実現していくかということを中心に学習に取り組んでいるので、そこも評価された大きな要因だと思います。以上です。

大塚委員                      ありがとうございます。1年生から6年生までのこの研究自体もとても長いですが、子供たちが1年生から問いを持つような、いろいろなものに興味・関心を持って、そして取り組んでみたいと思うことを実現させるという学びが6年間継続していくことの素晴らしさをすごく感じます。そして、人材育成ということで、若手職員が育っていく。そういう活力というのでしょうか、そういったものが学校全体のチーム力につながって行って、そしてその成果が子供の生き生きした学びの姿になっていくという、教育にとって頼もしい取組をなさっていることを、これからもいろいろな学校に知っていただきたいと思います。今回はおめでとうございます。

鯉淵教育長                      ほかにいかがでしょうか。

森委員                      森です。このたびはおめでとうございます。今の御説明にもありましたけれども、二つ質問がありまして、一つは教員と、もう一つは校長と、あと、もしできれば小中学校企画課にも、どのようにこの取組がほかの学校にも広がっていくか、どのようなことがポイントだと思っていらっしゃるか、お聞きしたいと思っております。

まず、主体的に学んでいる授業実践というお話がありました。これはとても大事なことだと思っていて、具体的にどのような授業なのか、一つの授業を例にお話しいただきたいと思っています。その中で、もし可能であれば、個別支援学級ではどうかということも併せて教えていただければと思います。お願いします。

境立野小学校  
教諭                      立野小学校の境です。ありがとうございます。例えば理科でいうと、裏面の3年3組「わたしたちの光」では、当日、最初10時40分スタートのときは屋上からスタートしました。屋上で鏡を使って光を反射させて遊ぶという取り組みからスタートし、遊んでいくと、的当てゲームなどを用意しているので、「どうしたらうまく当たるかな」、「何人かが当てると明るくなったぞ」というような話が出てきたそうです。それは想定して行っているのですが、そこから理科の問題を作っていくって学習を進めていくような感じなので、「今日はこれを学びます」とい

うのは立野小学校の中では少ないと思います。子供たちに「今日は何をやるの？」と聞いたらすぐ答えられる子たちが育っていると思います。

生活科でいうと、例えば2年3組「あそぼう！ガラクタカラシティ！」の場合は、ペットボトルのキャップやプラスチックのトレーなど、いろいろな物を教室に置いておくことで、子供たちが遊び始めます。そこから動くおもちゃを作ったり、試行錯誤できるような船を作るなど、場をどんどん用意していくことで子供たちが勝手に遊び始めます。勝手になのですが、必ずそこには教員の支援があって、その場をしっかりと作っていくところで子供が主体に動いています。

個別支援学級は非常に面白くて、本当にその名のとおり個別です。生活単元・生活科、理科と書いてあると思いますが、学年ではなくて、例えば4年生で生活科のことを学習している児童もいれば、3年生で5年生の理科の内容を学習している児童もいます。その児童に応じて、各学年でどこを学習しているのかが異なります。例えば今の5年生の一人の児童は、昨年の段階で、電気の学習の5年生のことはもう終わっていました。そのため、今年度は6年生のプログラミングのところも取り組むような感じで、その児童に応じたものを学習しています。ただ、そうするとばらばらになるので、一つテーマとしてレーシングカーを走らせるというようにして、3人いるのですが、教室にコースを作っています。そのコース設定によって一つにまとまっていくような感じで、個別支援学級は個別具体的な教育が展開されています。以上です。

森委員

ありがとうございます。遊び始めるところからのスタートで、更に知りたいところを引き出している素晴らしい実践だと思いましたし、そのための場を作っていくのが先生で、あとは必要な支援を一人ひとりにつけていくことがポイントなのだなと思いました。非常に分かりやすく説明いただきありがとうございます。個別支援学級の話も、個別に限らず全体に示唆に富んだ話だと思いましたが、一人ひとりの進路に合わせたことを行いつつも、その中から共通したことを一緒に考えるような場面設定をすることは、非常に多くの学びのあるお話だと思います。ありがとうございます。

校長にお伺いしたかったのは、平成29年度から応募されていて、教員の皆さんも学び続け、そして教え合っているということですのでけれども、授業作りに加えてその時間を確保するということだと思うので非常に大変なことだと思いますが、組織的に取り組むために工夫されていることをもしよろしければ教えてください。

石川立野小学校校長

本校では、どこの学校でもあると思いますが、重点研究という場で、ある教科・領域を取り上げ、授業を通して研究を進めています。月に2回ほど重点研究の教材研究や指導案検討といった場を設けているのですが、それだけで研究が進むわけではありませんし、まず子供理解が学校研究では一番だということで、学年研究というのを大変重要に考えています。子供の実態を理解し、そしてそれぞれ行っている学習の内容や進め方、それから、子供たちの良さをどう見出すかという評価についても、毎週設定している学年研究の時間をお互いが学び合うような時間になっています。学年研究も今、学年主任を育てていくのがとても重要でなかなか難しいところですが、立野小学校は前任の校長の頃から学年主任会という組織を作り、学年主任が学年をどう運営して、若手の教員はじめ皆さんと一緒に、良さを引き出しながら学んでいくにはどうしたら良いかという勉強会というような形で月に1度は設定しながら、学校全体でみんなが共同研究を作っていくという考えで取り組んでいます。そこは、学年主任会という組織があるという

のも大きな特徴かと思っています。

森委員

ありがとうございます。学年主任会といった組織があることと、その中で子供たちの良さを引き出すためにということのポイントとした勉強会をされていることが非常に大きいのだなと分かりました。ありがとうございます。このような学校が横浜市立学校全体に広がったら良いなと思うのですが、まず小中学校企画課の皆さんは何がポイントだと思っていらっしゃるかということと、どのようにこういった教育実践が更に広がっていくかということについてのお考えをお聞かせいただければと思います。

石川学校教育  
企画部長

学校教育企画部長の石川でございます。ポイントとしては大きく二つあると思います。一つは、先ほど立野小学校研究主任の境教諭と別のところで話をしたのですが、特に奇をてらったことをしているわけではなくて、今、国や横浜市でも大事にしている主体的・対話的で深い学びと言いますが、主体的な学びを大事にしています。大事にしなければならないこと、当たり前のことを行っていることが今回評価されたという話がありましたが、私たちとしましても横浜市の教育課程研究や授業研究で大事にしている、これまでも進めてきました主体的・対話的で深い学びの、良い事例がここにあるということ。これが一つのポイントだと思います。それは理科や生活科という教科を超えて、授業の在り方としてとても大事なポイントだということが一つ。もう一つは、学校で組織的に授業研究を進める、あるいは授業改善につなげていく取組、それは育成も含めてだと思えます。学年主任や若手教員など様々な人たちの育成も含めての組織的な取組ということ。この二つのポイントがあると我々は考えています。

このことを各学校の状況や特徴に応じて各学校に広めていくことが大事だと考えています。各学校の教育課程や授業研究を指導する指導主事が横浜市にはたくさんおりますが、指導主事の中で、今回のポイントで良かったところ、広めるべきところを共通理解することがまず一つ。それから、横浜市が組織的に取り組んでいます教育課程研究協議会で大きな研究が進められていますので、そこでも今回の事例を基に、何をどのように広めれば良いかということ。これは小中学校企画課だけではなくて、他課室、あるいは学校教育事務所みんなで協力しながら進めていきたいと考えております。

木村委員

木村です。おめでとうございます。本当に素晴らしいと思いますし、科学する心を育てる。ぱっと見て思ったのは、私は興味、関心、好奇心が湧いてくると、実験したくなって分析したくなって検証しますが、まさしくそういったことが必要かなと思います。私はスポーツが専門分野ですが、これからのスポーツはサイエンスであると、指導もサイエンスであると言われております。この場合のサイエンスは何かというと、人を説得する力。つまり、物事を客観的あるいは洞察的に捉えて、論理的に人に伝える。ですから、立野小学校は理科を中心に行っているかもしれませんが、こういう考えで子供たちが主体的に動くことが様々な教科にもつながっていくのかなと思います。

先ほど主体的とありましたが、質問が一つあります。主体的に課題設定をしていくとき、様々な情報を得ることが重要だと思います。当然、教員の発問、質問力が問われますけれども、このような流れの中で子供たちの質問力がこのように変わったということがあれば、ぜひ聞いてみたいと思います。いかがでしょうか。



石川立野小学  
校校長

また後で具体的な話は境教諭からもお話しさせていただきますが、子供たちの情報収集力や問う力というのは、お互いに関わり合う中で育っていくものだと思います。今までの実践の中で、話し合いをすることや実際の関わり合いを大切に授業を組んできましたが、今大きく立野小学校で取り組んでいることの中には、ICTを活用し、iPadを使って自分の考えをまとめ、それを発信・共有することと、それを授業の中へどう組み入れていくかということがあります。私も授業を見ていく中で、子供たちは自分の考えを振り返り、ロイロノート・スクールなどに多くの書き込みをしています。それをどのように共有していくかに関しても、お互い書いていることを、途中経過も含めて共有することが今はできるようになってきています。その中で子供の発信が、発言だけでなく、iPad上の操作や文章などという多様な方法で表れてきていると思っています。具体的な情報は、よろしければ境教諭からも提供させていただきます。

境立野小学校  
教諭

ありがとうございます。立野小学校教諭の境です。質問力に関してはすごく上がっていると思います。自分の教育実践で恐縮なのですが、私は、人の誕生、赤ちゃんがどう成長していくかという授業を理科で行いました。その一週間後、産婦人科の医師に来ていただいて、最後のまとめの話をしていただきました。そのときに興味がすごく高まっているので、かなり調べています。教科書の内容もそうですし、それ以上の資料、学校図書館にある本でもそうですし、かなりの情報を調べています。それにもかかわらず、羊水の中で赤ちゃんは目が開いているのか閉じているのか、閉じている写真ばかり見ているけれども、開いていることもあるのではないかと、羊水は結局何だろうか、衝撃から守るといえるのは、実験して確かめたのですが、どこから出てきているのだろうかなど。あと、胎盤についてはなかなか小学校では扱わないのですが、胎盤の仕組みが不思議なのです。血液型が違って大丈夫であると。通常、血液型が違ったら固まってしまいます。でも、そうではない仕組みはどうなっているのかというのを、3時間目から4時間目で行って、その間の休憩の時間帯に医師のところへ何人も行って、質問が終わりませんでした。あとで受け付けるからということで次の授業へ行ったのですが、そうなる質問力も高まっていると思います。

その一つの要因として、観察する力が高まっているからだだと思います。よく見るようになっていく。例えば、先ほどの人の誕生の話でも、へその緒は血管が3本ねじれています。私はそこを中心に学習したかったのですが、その模型を見てそれを見つけられた子がいて、普通だったらそのままずっと「へその緒があるね」で終わるのですが、「何でねじれているのか」というところにまた疑問を持ち、その強さや、血液が流れやすいようになっていくといったところまで探究することができたり、そのように質問力は科学と非常につながって高まっているなと思っています。以上です。

木村委員

ありがとうございます。すごいと思います。例えば見るということも、目にひげの「見る」から診察の「診る」、観察の「観る」や、門に耳の「聞く」から訊ねるの「訊く」に耳への「聴く」。恐らく、立野小学校ではそういったように、ものの見方や聞き方を変えていく。そこに質問力が入ってくるということは、主体的な学びがこれからも動くのだろうなと思います。先ほど四王天委員から「挨拶」について話がありましたが、挨拶の語源はもともと禅問答です。「これは何ぞや」と問うのが「挨」で、「これはこうです」と答えるのが「拶」だと聞いたことがあります。そういった中で、目上の教員から問いかけて、子供たちがお互いに応酬する。ですから立野小学校は挨拶などもしっかりできているのか

など勝手に想像していますが、ぜひこれからもそれをつなげて横浜市全体に広げていただければと思います。長くなりましてすみません。

四王天委員

受賞おめでとうございます。平成29年度から取り組み始めて、年ごとに奨励校、優秀校とステップアップしていくので、すごくやりがいがあってチャレンジしたかがあったかだと思います。今回、最優秀校、一番トップまで受賞しました。このソニー子ども科学教育プログラムでは、科学を好きな子供を育てるための教育とあって、理科と生活科は導入しやすい、取り組みやすい、結びつきやすい教科だと思いますが、今度は、例えば国語や算数、社会など、そのようなほかの教科でチャレンジしてみようというようなお考えはございますか。

石川立野小学校校長

立野小学校校長の石川です。ソニー子ども科学教育プログラム教育実践論文については平成29年度から応募させていただいているのですが、立野小学校は長年、様々な教科領域の研究に取り組んでいる学校で、理科、生活科だけでなく社会科を中心に取り組んでいたり、英語や音楽もずっと力を入れて取り組んでおります。今、理科、生活科を柱に学校を作っていこう、子供たちを育てていこうとしています。これは様々な教科領域に広がっていきその学校研究であり、子供中心の学校、子供の意欲・熱中・満足の姿を実現できるようにというのが学校教育目標です。実は来年、全国小学校理科研究協議会研究大会とあって、研究を一つ受けて全国発表校の一つとなっています。ですので、この数年の柱は理科、生活科ということで子供たちの学びを支えていこうと思いますが、それにとどまらず、全教科の全領域の中で子供たちの発見する力、発信する力、共に考えを高めしていく力を育てていく学校にしていきたいと思っております。

四王天委員

ありがとうございます。全教科ということは、全方位で広がっていくと、好奇心の強い生徒が育つと期待しております。よろしく申し上げます。

鯉淵教育長

ほかによろしいでしょうか。次に、「新型コロナウイルス感染症への対応について」、所管課から御報告いたします。

青石人権健康教育部担当部長

人権健康教育部担当部長をしております青石です。よろしくお願ひいたします。「新型コロナウイルス感染症への対応について」御報告させていただきます。

まず、「1 教職員・児童生徒の新型コロナウイルス感染状況」でございますが、令和4年6月下旬からのいわゆる第7波では、市中の感染拡大に伴い、横浜市立学校関係者においても、7月中旬をピークに週当たり最大5,070人の感染が報告されておりました。その後、10月中旬にかけて減少傾向にありましたが、10月中旬以降、再び市中の感染拡大に伴い、横浜市立学校関係者においても感染者数が増加しております。横浜市立学校では、引き続き、衛生管理マニュアル及び通知等に基づき、感染予防のための取組を徹底しております。令和4年12月12日の感染者数は、児童生徒が1,080人、教職員が26人、新規学級閉鎖数は4学級となっております。下にそれぞれ感染者数、横浜市内の陽性者数、横浜市立学校陽性者数をまとめております。御覧ください。

次に、「2 臨時休業となった学校について」御報告いたします。A小学校では、10月29日までに教職員13人、児童40人の感染が判明したため、5学級を学級閉鎖しました。10月30日には、教職員の陽性者が更に7人判明し、最終的に27人の陽性者が確認されました。当該校については、10月31日から11月4日まで休校

とさせていただきます。休校に当たっては、児童は一人一台端末を持ち帰り、ロイノート・スクールで学習課題を提出したりするなど、オンライン学習に取り組みました。

裏面をお願いいたします。「3 学校における給食・昼食の場面での感染症対策について」です。11月29日に発出された文部科学省通知を踏まえ、横浜市立学校での給食・昼食時の会話等の取扱いについて整理し、以下のとおり、12月7日、学校宛に通知を発出いたしました。変更に伴っては、小学校・中学校・高等学校については机を向かい合わせにせず、なるべく離れた状態であれば、大声の会話を控えて会話することができるように変更させていただきました。御報告は以上です。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

大塚委員

御報告ありがとうございます。文部科学省から11月末に通知が発出されました、そのときに学校現場としてはいろいろな対応を求められるのではないかと私としては危惧しました。横浜市教育委員会事務局から12月7日に学校宛通知がออกมาして、机を向かい合わせにせず、なるべく離れた状態ということで、給食の時間にマスクを外すということでしたが、これに関して学校現場から御相談やお困りの状況など、そういった声は届いていますでしょうか。そこを教えてくださいと思います。

長田健康教育・食育課長

健康教育・食育課長の長田でございます。よろしく申し上げます。御質問ありがとうございます。状況でございますが、問合せ等は、私たちの認識としてはそれほど多く入っていないというところでございます。一方で、学校の現時点での状況ですが、通知に沿って会話が可能とお伝えしていますが、食事中の会話を控える生活が非常に長かったこともございまして、子供たちも様子を見ながら会話を進めている状況と伺っております。学校ごとに状況を見ながら、会話のある給食、昼食も含めて対応を模索している感じと聞いております。以上でございます。

大塚委員

ありがとうございます。保護者の方々にとってみると、我が子が会話もせずに給食を食べる状況をつらく思っているいらっしゃる御家庭は、一日でも早くマスクを外した給食を願っている方もいれば、正反対で飛沫感染をものすごく心配されているなど、現在新型コロナウイルス感染症で学級閉鎖、12月の最後の数値は4学級になっておりましたけれども、今第8波の最中ということで、今後またこれが収束していくのか、まだまだこの寒さの影響でどんどん広がっていくのか、それによって学校の判断も苦しまれているだろうと思います。保護者対応も現場での苦労が想像できます。今後はきめ細やかに発信していただきたいと思えますし、可能であれば、第8波が収束してからこのような対応をどうするかということを考えられるような時間が必要ではなかったかなと思っております。これからの取組もよろしくお願いいたします。

森委員

御報告ありがとうございます。今、大塚委員からもありましたが、保護者によっては一日も早く外してという思いを持っている方もいらっしゃると思います。不安がある方もいらっしゃると思います。子供たちも同じ状況かと思っております。まだマスクを外すことへの不安がある子もいれば、できれば外したいと思っている子もいる。いろいろな子供たちがいる中、特に低学年においては黙食以外を知らな

い児童・生徒もいると思いますので、その子供たちにとってはなおさら違うシーンを見ていくことへの不安などもあるでしょう。学年によって、学級によって、不安や安心というのが全く違うのだらうなと思います。

そうしたときに、安心して楽しく給食が食べられることは、子供が30人いれば30通りの安心の物差しと30通りの楽しい物差しがあると思うので、そうした児童・生徒を目の前にしたときに、教職員が何をもって安心や楽しい状態と思えるか、教職員自身も安心してそこを自分で判断できるか、そこが今回のポイントなのかと思います。そうしたときに、給食の時間で何を横浜市として大切にしているかについての考え方があれば、まず教えていただければと思います。

長田健康教育・食育課長

ありがとうございます。健康教育・食育課長の長田でございます。横浜市として給食の時間で何を大切にしているかという御質問を頂きました。まずは文部科学省から食に関する指導の手引が出ておりまして、大切にすることということで六つ出されております。一つ目は、食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。二つ目は、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養、そして食事の摂り方を理解して自ら管理していく能力を身に付ける。また、正しい知識・情報に基づいて食品の品質及び安全性等を自ら判断できる能力を身に付ける等々がございます。代表的なものを今三つ取り上げましたけれども、これに基づいて横浜市でも指導しているという形でございます。

森委員

ありがとうございます。こういったことを先生がまず知った上で、この通知というのでしょうか、机を向かい合わせにせずなるべく離れた状態で、大声での会話を控えて食べるということ、自分なりに落とし込んで話せるかどうかのポイントなのかと思います。そのため、コロナ禍前だろうと今だろうと、この状況でも今日の前にいる、不安な状況にいる子供とたくさん話したいと思っている子が同じ空間の中で、喜びや楽しさをどのように作っていきけるか立ち戻って考えたり、同時に新型コロナウイルス感染症のこともあるので、それにおいてはなぜ向かい合わせにせずとなったのか。多分いろいろなデータもあると思うので、先生自身も納得できる、理由とセットでない先生はすごく迷われるのだらうなと思います。その伝え方や、伝えるときに自分が持てる引き出しを増やすことを一緒に伝えていただけると、なお良いと思いました。

鯉淵教育長

御意見ということでよろしいでしょうか。

中上委員

2点あります。1点目は、先ほど臨時休業となった学校について御報告がありまして、私も校長と電話でやり取りしました。非常に苦勞されて無事対応されましたが、そのときに校長がおっしゃっていたのは、教員の感染者がたくさん出たときに、端末を一斉に児童・生徒に扱いも含めて徹底していくのに、教育委員会事務局からの応援要員が非常に助かったと。即座に応援していただいた、抗原検査キットをすぐに対応していただけたなど、感謝の話もありました。また、大事なのは、保護者に常に連絡と報告を密にしていたので、保護者もあまり混乱しないで理解できたということです。それは多分、日頃から校長たちと保護者の方との信頼関係ができていたからうまくできたのだと思います。今、政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身会長が新型コロナウイルスに罹患して、誰が感染してもおかしくない状態ですが、罹患した後の対応が、教育委員会事務局の支援と連携の下に、また、学校の普段の保護者との信頼関係も含めてしっかり取り組めたケースだと感じました。

2点目ですが、マスクは今までの話にありましたように、確かに外すということ、黙食の在り方についてタイミングが今は難しいときだと思うので、これが落ち着いてからだと思いますが、コミュニケーションの大事さや、食育です。私は他人のことを言ってなかなか自身はできていないのでいつも配偶者から注意されますが、私は昔の教育を受けていますので早く食べてしまいます。よくかんで、ひと口につき30回かむとあります、会話も大事ですが、かむことは一つの食育にもなりますし、黙食の在り方についてもいろいろ考えるときだと思えます。新型コロナウイルス感染症の第8波が落ち着いたら、タイミングを見てまたいろいろ議論していただきたいと思えます。以上です。

木村委員

一つだけ、教職員・児童生徒の感染経路は主に何ですか。

長田健康教育・食育課長

御質問ありがとうございます。臨時休業になった学校に関してでよろしいでしょうか。それとも全体的なところででしょうか。

木村委員

全体的なところ、あるいは両方でも結構です。

長田健康教育・食育課長

ありがとうございます。全体的なところでは、現在、保健所の調査が入っていませんので、基本的に感染経路は分からないというのが実態でございます。以上でございます。

木村委員

ありがとうございました。

四王天委員

あと二週間弱ぐらいで冬季休業に入られるかと思えます。その過ごし方の注意でもあるのですが、昨年度と言いますか今年の初め、冬季休業明けはどのような状況だったのか、もう一度報告をお願いできますか。

長田健康教育・食育課長

御質問ありがとうございます。今年当初の1月以降の状況ですが、例えば1月10日以降、冬季休業が明けてからについては、陽性者の数はそれほどでもございませんでした。ただ、その翌週の1月17日の週から徐々に増えてきて、1月10日の週の感染者の報告は、教職員・児童生徒を合わせて240人。その次の週は、1,078人と倍増しています。一番のピークは2月7日の週で、1週間で3,449人という報告を頂いている状況でございます。このときは第6波といわれるものになります。

四王天委員

今年の年明けは全く予断を許さない状況だったということですね。ありがとうございます。

鯉淵教育長

よろしいでしょうか。ほかに御意見等がなければ、次に、議事日程に従い、審議案件に移ります。まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第46号議案「横浜市国際学生会館指定管理者選定評価委員会委員の任命について」、教委第47号議案から教委第51号議案「教職員の人事について」は人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉淵教育長

それでは、教委第46号議案から教委第51号議案は、非公開といたします。

審議に入る前に、事務局から報告をお願いします。

片山総務課長

先ほどの資料の修正を1点させていただきたいと思います。「子ども科学教育研究全国大会について」の資料の表ページ「1 概要」3行目の中ほどに「審査員の千葉大学山下秀一教授から」とあり、優秀の「秀」の字になっておりますが、このページの一番下のお名前は「修」となっており、こちらが正しい字になっておりますので、訂正しておわび申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

次回の教育委員会定例会は、1月19日木曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、1月25日水曜日の午前10時から開催する予定です。

鯉渕教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は、1月19日木曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、1月25日水曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

教委第46号議案「横浜市国際学生会館指定管理者選定評価委員会委員の任命について」

(原案のとおり承認)

教委第47号議案「教職員の人事について」

(原案のとおり承認)

教委第48号議案「教職員の人事について」

(原案のとおり承認)

教委第49号議案「教職員の人事について」

(原案のとおり承認)

教委第50号議案「教職員の人事について」

(原案のとおり承認)

教委第51号議案「教職員の人事について」

(原案のとおり承認)

鯉渕教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前11時32分]